



▲2009年安田記念(GI)

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.10 —

▼2009年ドバイ・デューティフリー(GI)



国内に満足しなかった“女王”

ウオッカ

牝馬として64年ぶりとなる日本ダービー制覇を達成し、天皇賞(秋)、ジャパンカップにも優勝と、中長距離のGIを制したウオッカだが、断トツの強さを見せたのはマイルの舞台である。芝1600mでの通算成績は9戦7勝、2着2回。その勝ち鞍には四つものGIと、一つのJpnⅢが含まれており、また2着に敗れた2回もJpnⅠなのだから、まさに圧倒的な成績と言っていだろう。

マイル戦でずば抜けた実績を残したウオッカは、今週行われる“春のマイル王決定戦”安田記念を2度制している。

1度目は4歳の2008年。ヴィクトリアマイルでエイジアンウインズを捉えきれず2着に敗れたものの、続いて出走した安田記念では先行策をとると、先に抜け出した香港のアルマダを豪快に差し切り、3馬身半もの差をつけて圧勝を飾った。

2度目の制覇は2009年。ヴィクトリアマイルで2着を7馬身ぶっちぎって勝利を収めると、その余勢を駆って臨んだ安田記念でも、圧倒的な支持を背負いながら持てる力を遺憾なく発揮。直線で前が壁になり、行き場を失う場面もあったが、中国から力強く抜け出し、1歳下のダービー馬

ディーブスカイを3/4馬身退けて連覇を果たしたのだった。

国内で“女王”の名をほしいままにしたウオッカは、さらに世界へその名を響かせるべく計3度、ドバイへ遠征している。

初回の2008年はドバイ・デューティフリー(GI、芝1777m)のみに出走。先行して積極的にレースを進めたが、最後の伸びを欠いて、勝ち馬から約2馬身差の4着に敗れた。

2度目の2009年には前哨戦のジェベルハッタ(G2、芝1777m)から参戦し、5着に入線。巻き返しを狙った目標のドバイ・デューティフリーでは、けっして得意とは言えないタフな馬場になったことも影響してかゴール前で脚が上がり、大差の7着に敗退した。

3度目の2010年にはドバイ・ワールドC(GI、オールウェザー2000m)に目標を定め、前哨戦となるアル・マクトゥームチャレンジラウンド3(G2、オールウェザー2000m)から遠征。しかし、ここを8着に大敗すると、レース後に鼻出血を発症していることが判明。関係者の協議の結果、このレースを最後に現役を引退した。

海外では芳しい成績を残せなかったが、国内での良績に満足せず3度にわたってドバイへの遠征を敢行した関係者の決断と、過酷な輸送に耐えたウオッカの肉体と精神のタフさは“女王”の名に相応しいものだった。

全成績		中央22戦10勝 海外4戦0勝					
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手	
2006.10.29	京都	2歳新馬	1600	1	1:35.0	鮫島 克也	
11.12	京都	黄菊賞	1800	2	1:49.5	四位 洋文	
12.3	阪神	阪神ジュベナイルフィリーズ(GI)	1600	1	1:33.1	四位 洋文	
2007.2.3	京都	エルフィンS	1600	1	1:33.7	四位 洋文	
3.3	阪神	チューリップ賞(JpnⅢ)	1600	1	1:33.7	四位 洋文	
4.8	阪神	桜花賞(JpnⅠ)	1600	2	1:33.9	四位 洋文	
5.27	東京	東京優駿(JpnⅠ)	2400	1	2:24.5	四位 洋文	
6.24	阪神	宝塚記念(GI)	2200	8	2:14.0	四位 洋文	
10.14	京都	秋華賞(JpnⅠ)	2000	3	1:59.3	四位 洋文	
11.11	京都	エリザベス女王杯(GI)	2200	—	出走取消	四位 洋文	
11.25	東京	ジャパンカップ(GI)	2400	4	2:24.9	四位 洋文	
12.23	中山	有馬記念(GI)	2500	11	2:35.7	四位 洋文	
2008.2.23	京都	京都記念(GⅡ)	2200	6	2:13.9	四位 洋文	
3.29	ドバイ	ドバイ・デューティフリー(GI)	1777	4	—	武 豊	
5.18	東京	ヴィクトリアマイル(JpnⅠ)	1600	2	1:33.8	武 豊	
6.8	東京	安田記念(GI)	1600	1	1:32.7	岩田 康誠	
10.12	東京	毎日王冠(GⅡ)	1800	2	1:44.6	武 豊	
11.2	東京	天皇賞(秋)(GI)	2000	1	R1:57.2	武 豊	
11.30	東京	ジャパンカップ(GI)	2400	3	2:25.7	岩田 康誠	
2009.3.5	ドバイ	ジェベルハッタ(G2)	1777	5	—	武 豊	
3.28	ドバイ	ドバイ・デューティフリー(GI)	1777	7	—	武 豊	
5.17	東京	ヴィクトリアマイル(GI)	1600	1	1:32.4	武 豊	
6.7	東京	安田記念(GI)	1600	1	1:33.5	武 豊	
10.11	東京	毎日王冠(GⅡ)	1800	2	1:45.5	武 豊	
11.1	東京	天皇賞(秋)(GI)	2000	3	1:57.5	武 豊	
11.29	東京	ジャパンカップ(GI)	2400	1	2:22.4	C.ルメール	
2010.3.4	ドバイ	アル・マクトゥームチャレンジラウンド3(G2)	全2000	8	—	C.ルメール	

※レース名は当時の表記による

ウオッカ 牝 鹿毛 2004年4月4日生

調教師：角居勝彦 馬主：谷水雄三氏

父 タニノギムレット 1999 鹿	ブライアンズタイム	Roberto
	タニノクリスタル	Kelley's Day
		クリスタルパレス
母 タニノシスター 1993 栗	ルシオン	タニノシーバード
		Riverman
	エナジートウショウ	Belle Dorine
		トウショウボーイ
		コーニストウショウ